

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果について

紀北町教育委員会

令和4年9月

本年4月19日に、町内の小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要について、紀北町の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施されています。

本調査が児童生徒の学力の全てを表すものではないことに留意する必要がありますが、教育施策や各学校における指導の充実・改善への役立てこそが本調査の目的であることから、結果を踏まえて今後の紀北町の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

1

調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学年

小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒

(3) 調査の内容

- ①教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）
※平成31年度から、知識・活用を一体的に問う問題に変更。（例：国語A、国語Bが「国語」）
- ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査
- ③学校に対する質問紙調査
指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

(4) 調査実施日（全数調査）

令和4年4月19日（火）

(5) 本体調査を実施した学校・児童生徒数〔紀北町〕

【小学校調査】

	対象学校数	実施学校数(実施率)	児童数
小学校	8	8(100%)	90人

【中学校調査】

	対象学校数	実施学校数(実施率)	生徒数
中学校	4	4(100%)	90人

(6) 調査結果の取扱いに関する配慮事項（実施要項抜粋）

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。その際、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争につながらないように十分配慮する。

2 教科の調査結果概要

(1) 教科の調査結果

学力調査の問題は毎年異なることから、平均正答率は問題の難易度により毎年変化し、年度間の平均正答率による単純な比較はできない。

そこで紀北町では、文部科学省から配付されている「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答率を100とした場合の本町における得点状況を算出している。そうすることで、全国的な状況との関係について年度間の変化を経年で比較することができる。

小学校

※令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大により実施されず。

	国語		算数		理科 「知識」「活用」 に関する問題
	国語A	国語B	算数A	算数B	
	主として「知識」 に関する問題	主として「活用」 に関する問題	主として「知識」 に関する問題	主として「活用」 に関する問題	
全国	100		100		100
R4 紀北町	97		100		99
R3 紀北町	99		100		
R2 紀北町	未実施		未実施		
H31 紀北町	100		101		
H30 紀北町	97	95	98	96	97

中学校

	国語		数学		理科 「知識」「活用」 に関する問題
	国語A	国語B	数学A	数学B	
	主として「知識」 に関する問題	主として「活用」 に関する問題	主として「知識」 に関する問題	主として「活用」 に関する問題	
全国	100		100		100
R4 紀北町	99		101		98
R3 紀北町	96		101		
R2 紀北町	未実施		未実施		
H31 紀北町	98		102		
H30 紀北町	97	98	100	97	97

令和4年の本町における調査結果の概要として、小学校算数は全国と同値、中学校数学については全国を上まわり、小学校国語・中学校国語についてはいずれも全国を下まわった。小学校理科・中学校理科については4年ぶりの実施となり、いずれも全国を下まわっているものの、前回は上まわった。

経年でみていくと、小・中とも算数・数学で成果を上げているが、国語が課題となっている。しかし、中学校国語がここ5年で一番よい結果を残している。

全体的にみてみると全国との差が少なく、紀北町の地においても義務教育の機会均等とその水準の維持が図られていると考えられる。

(2) 無解答率について

【小学校】

国語	算数	理科
3.9 (-1.8)	1.9 (-1.4)	4.7 (1.1)

【中学校】

国語	数学	理科
3.9 (-0.3)	7.8 (-3.0)	2.3 (-1.1)

※ () の数値は、全国平均無解答率との差を示している。

小学校国語・算数、中学校国語・数学・理科において、全国平均無解答率を下まわっており、最後まで解答を書こうと努力できる粘り強さが高まっていると捉えることができる。

一方で、記述式の問題の無解答率が他の問題に比べて高くなっており、記述する問題に対応できるよう指導の改善を図る必要がある。

(3) 各教科における特徴

小学校

①【国語】

『知識及び技能』の「我が国の言語文化に関する事項」については、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」問題は、平均正答率が全国平均を上まわっている。一方、「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題は、全てにおいて平均正答率が全国平均を下まわっており、課題がみられる。

『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」については、「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えているが、互いの立場や意図を明確にしながらいかに計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題では課題がみられる。

「読むこと」については、「登場人物の行動や気持ち、相互関係を捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したりする」問題について課題がみられる。

「書くこと」については、今回学力調査として初めて、「文章の構成や展開について感想や意見を伝え合い、自分の文章のよさを見つける」問題が出題された。全国同様、紀北町においても課題となっている。

記述式の問題については、いずれも平均正答率が全国平均を下まわっており課題である。

②【算数】

「数と計算」の領域については、「被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする」問題、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」問題は、平均正答率が全校平均を上まわっている。

「変化と関係」の領域については、「百分率で表された割合を分数で表す」問題は、平均正答率が全国平均を大きく上まわっている。一方、「数量（飲み物の量）が変わっても割合（飲み物の濃さ）は変わらない」問題で課題がみられ、全体の67.8%にのぼる児童が誤答である選択肢1を選んでいる。

学習指導要領に新設された「データの活用」の領域については、「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る」問題は、平均正答率が全国平均を上まわっているが、「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する」問題については、課題がみられる。

「図形」の領域で出題された「プログラム」では、「回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述する」問題に課題がみられる。

記述式の問題については、4問中3問において、平均正答率が全国平均を下まわっており課題である。

③【理科】

「生命」を柱とする領域については、「昆虫の体のつくりを理解する」問題では、平均正答率が全国平均を大きく上まわっているが、「観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ」問題では、平均正答率が全国平均を下まわっている。

「粒子」を柱とする領域については、メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けているが、「メスシリンダーという器具の名前を書く」問題では、平均正答率が全国平均を大きく下まわっている。

また、「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する」問題においても課題がみられる。

「エネルギー」を柱とする領域については、「日光は直進するという光の性質を理解する」問題では、全国同様、紀北町においても課題がみられる。

「地球」を柱とする領域については、5問中4問において、平均正答率が全国平均を上まわっている。なかでも、「夜の気温について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ」問題では、平均正答率が全国平均を大きく上まわっている。

記述式の問題については、3問中2問において、平均正答率が全国平均を上まわっている。

中学校

①【国語】

『知識及び技能』の「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題では、平均正答率が全国平均を上まわっている。また、「我が国の言語文化に関する事項」についての、「行書の特徴を理解する」問題、「行書の読みやすい書き方について理解する」問題においても、平均正答率が全国平均を上まわっている。

『思考力・判断力・表現力等』の「話すこと・聞くこと」については、「論理の展開などに注意して聞く」問題では、平均正答率が全国平均を下まわり、課題がみられる。

「書くこと」および学習指導要領に新設された「情報の扱い方に関する事項」については、「根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く」問題で、全国同様、紀北町においても課題となっている。

特に、情報を引用するにあたって、かぎカッコ（「 」）でくることができていないという理由で、誤答となった生徒が全体の43.3%を占めている。

「読むこと」については、「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」問題では、平均正答率が全国平均を大きく下まわり、課題がみられる。

記述式の問題については、3問中2問において、平均正答率が全国平均を下まわり、課題となっている。

②【数学】

「数と式」の領域については、「素因数分解」「連立二元一次方程式」の問題で、平均正答率が全国平均を上まわっている。一方、「文字を用いた式について、結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明する」問題においては、全国同様、紀北町においても課題となっている。

「図形」の領域については、「図形の合同について、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する」問題で、課題がみられる。

「関数」の領域については、「与えられたグラフから、必要な情報を適切に読み取る」問題で、平均正答率が全国平均を大きく上まわっているが、「一次関数の変化の割合の意味を理解する」問題においては、全国同様、紀北町においても課題となっている。

「データの活用」の領域については、学習指導要領において、統計的内容が充実したことを踏まえて、初めて出題された「箱ひげ図から分布の特徴を読み取る」問題で、平均正答率が全国平均を大きく下まわり、課題がみられる。

調査問題14問中、全国平均を下まわっているのはわずか4問だけである。また、記述式の問題においても、4領域で5問出題されているが、「数と式」「図形」「データの活用」について、平均正答率が全国平均を上まわっている。

③【理科】

「生命」を柱とする領域については、「節足動物のあしの様子が異なることについて、生活の場所や移動の仕方と関連付け、その理由を記述する」問題で、平均正答率が全校平均を大きく上まわっている。一方、「複数の脊椎動物のあしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈する」問題では、平均正答率が全校平均を大きく下まわっている。

「粒子」を柱とする領域については、「実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる」問題では、平均正答率が全国平均を大きく上まわっているが、「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を問う」問題では、全国同様、紀北町においても課題となっている。

「エネルギー」を柱とする領域については、「日常生活の中で、静電気に関する知識及び技能を活用する」問題で、平均正答率が全校平均を大きく下まわっている。また、「おもりに働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明する」問題では、全国同様、紀北町においても課題となっている。

「地球」を柱とする領域については、「観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する」問題で、平均正答率が全校平均を上まわっている。また、「地層の広がりについて、ルートマップと地層のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈する」問題では、平均正答率が全国平均を上まわっているものの、全国同様、紀北町においても課題となっている。

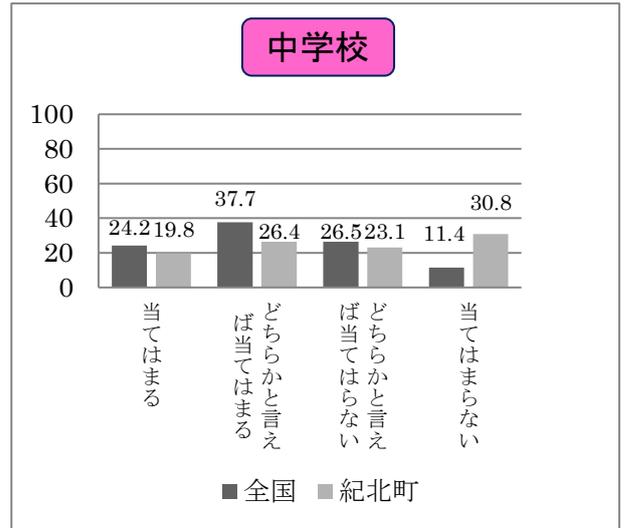
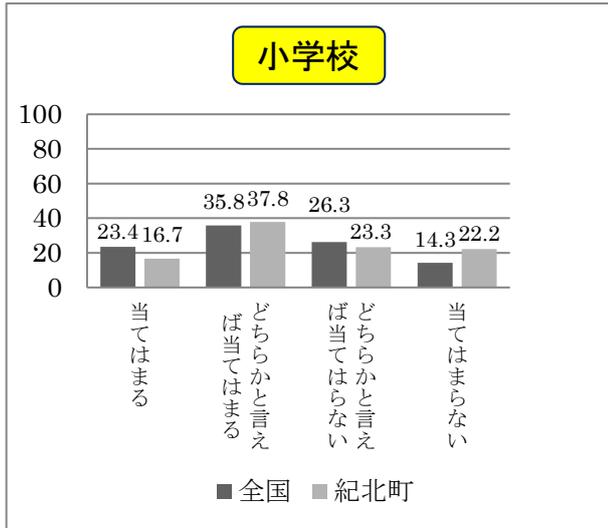
記述式の問題については、5問中4問において、平均正答率が全国平均を下まわり、課題となっている。

「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。ここでは、「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載します。

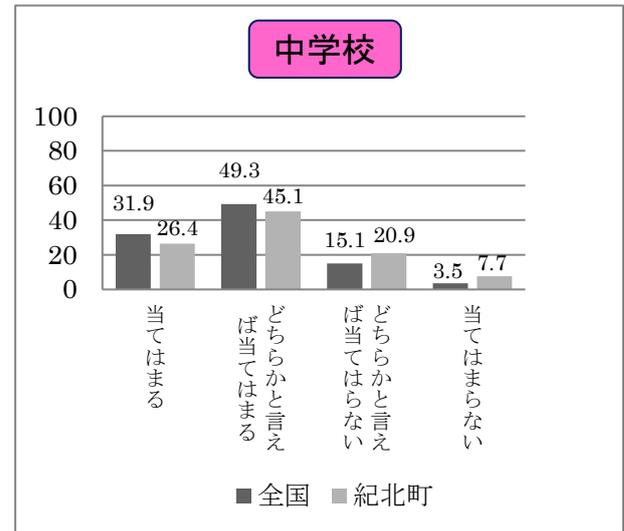
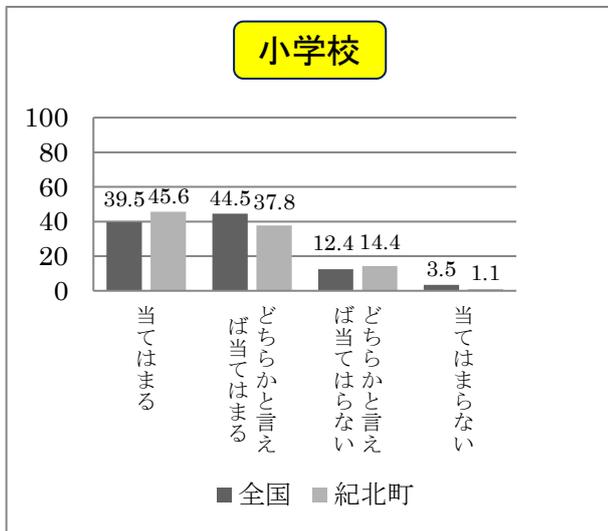
(1) 学校教育に関する特徴的なこと

- 「国語、算数・数学の勉強は好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、算数・数学は小学校、中学校とも全国より高く、国語は小学校、中学校とも全国より低い。
- 「理科の勉強は好きですか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国より低い。
- 「国語、算数・数学の授業の内容はよく分かりますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、算数・数学は小学校、中学校とも全国より高く、国語は小学校、中学校とも全国より低い。
- 「理科の授業の内容はよく分かりますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低い。
- 「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国より低い。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国より低い。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じ、中学校は全国より高い。
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」に対して、「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じ、中学校は全国より高い。

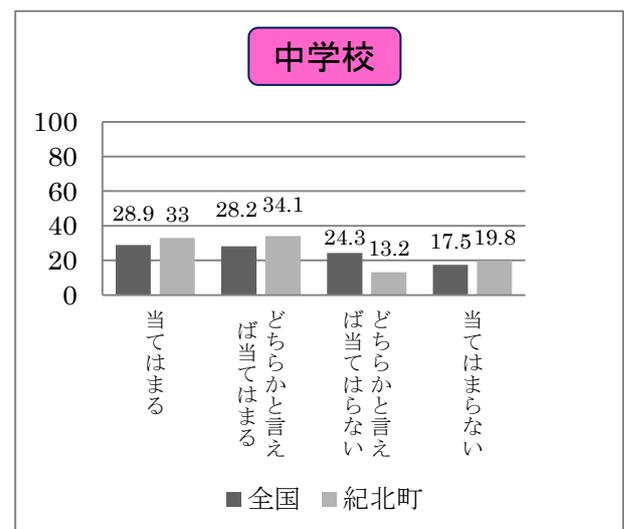
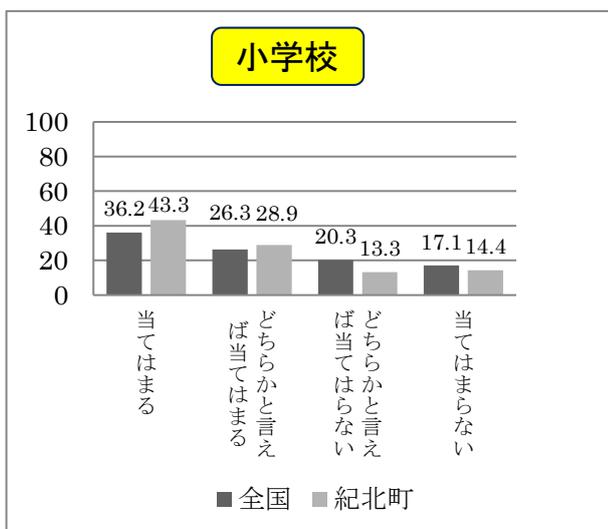
①国語の勉強は好きですか。



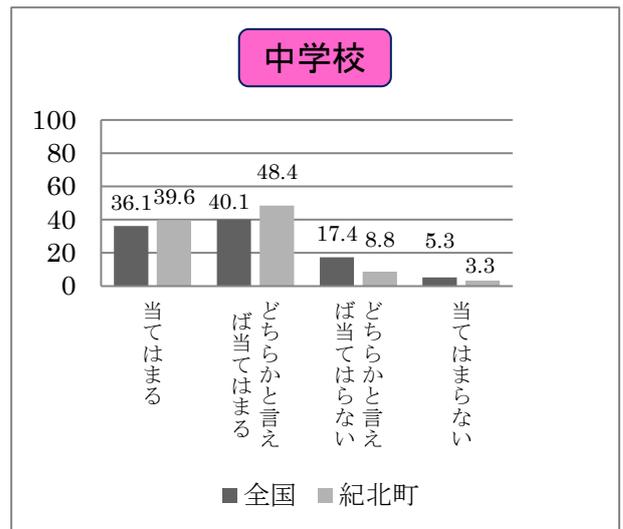
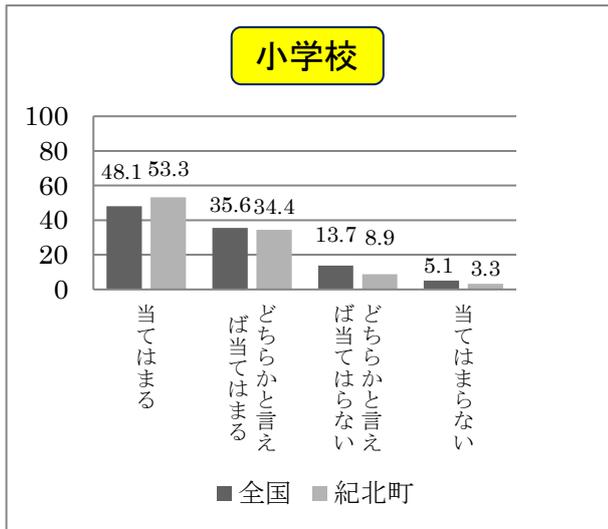
②国語の授業内容はよく分かりますか。



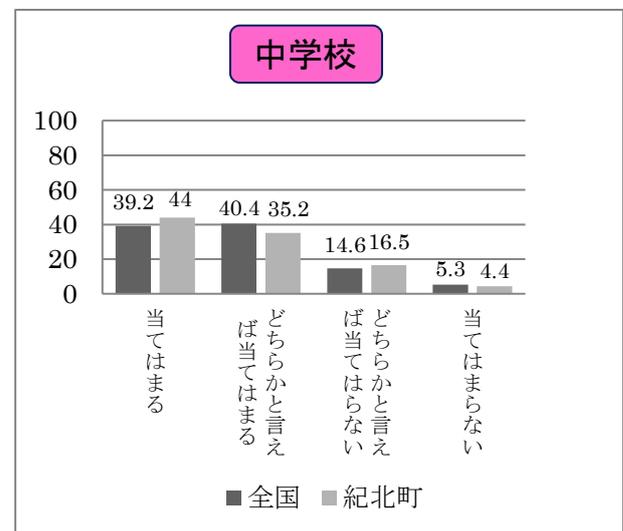
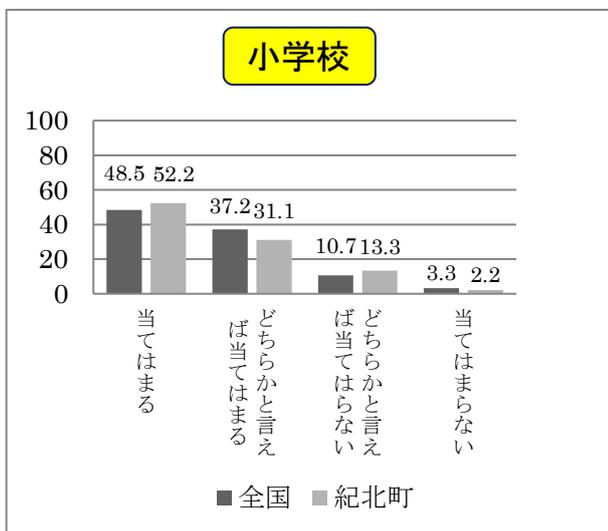
③算数・数学の勉強は好きですか。



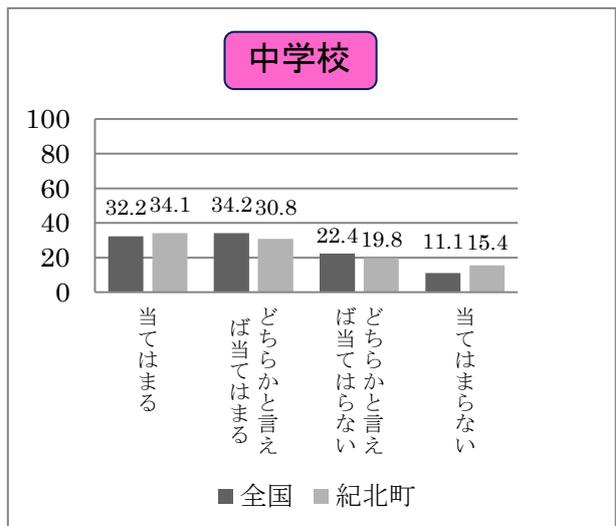
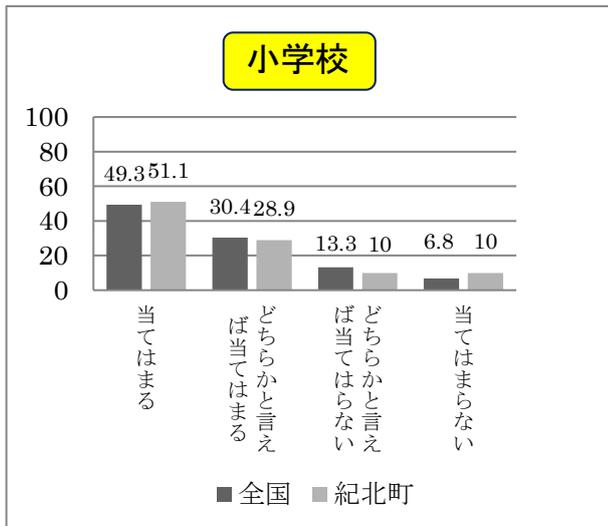
④算数・数学の授業内容はよく分かりますか。



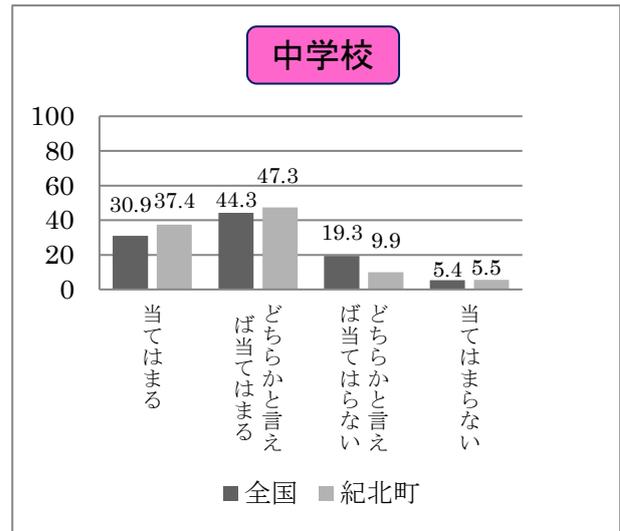
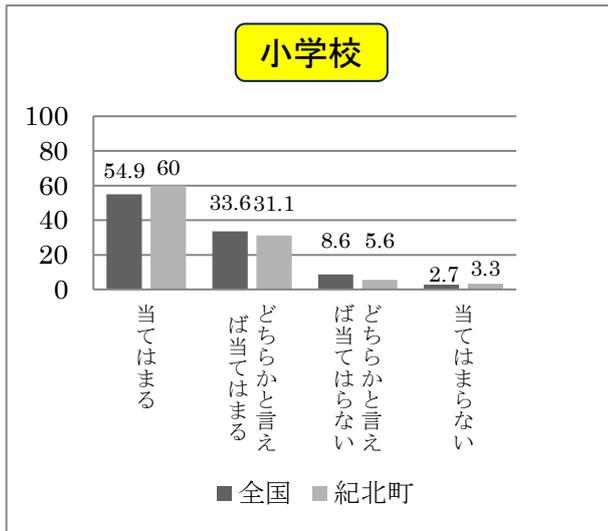
⑤算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。



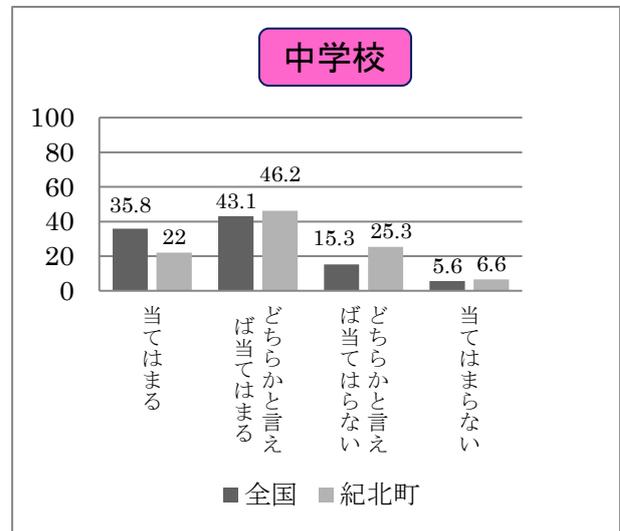
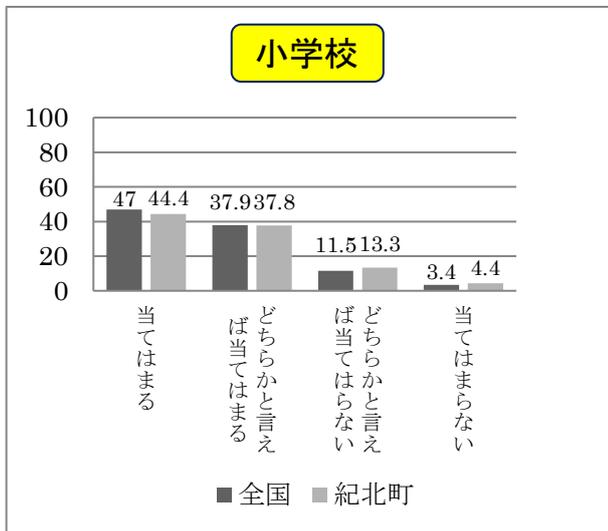
⑥理科の勉強は好きですか。



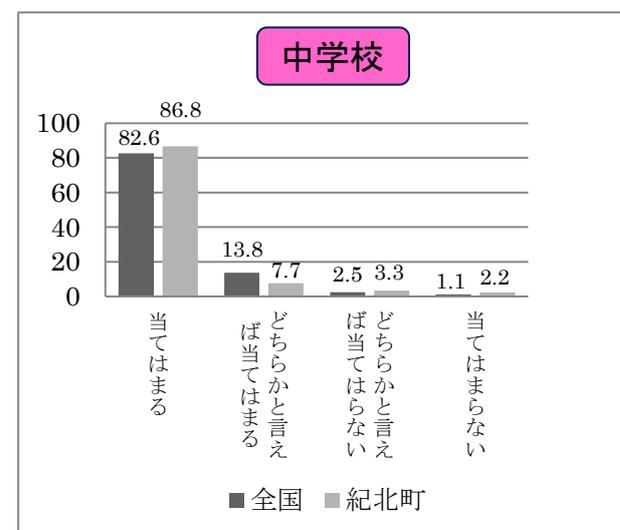
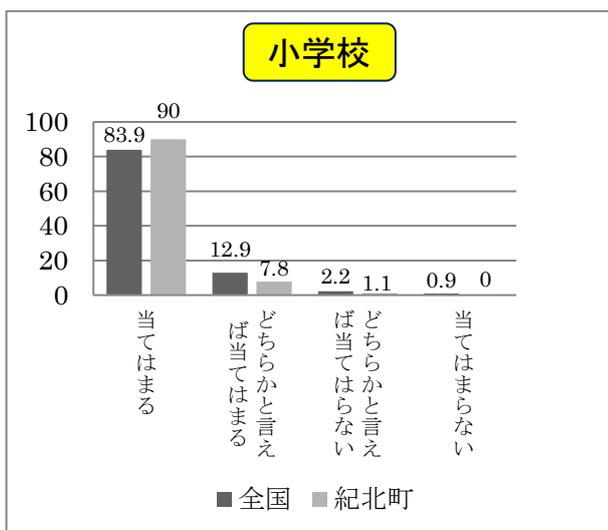
⑦理科の授業の内容はよく分かりますか。



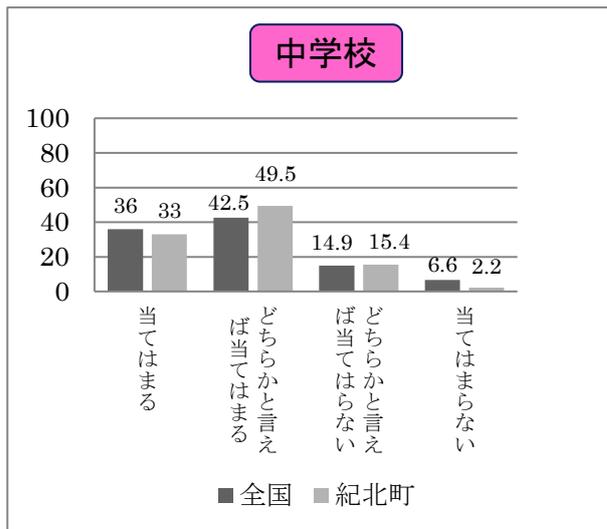
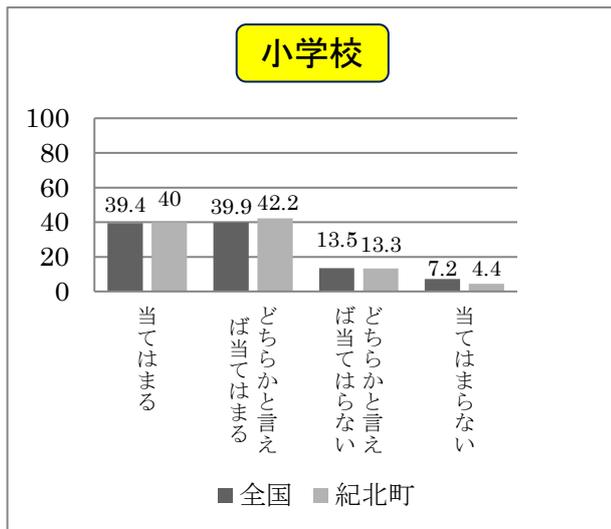
⑧理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか。



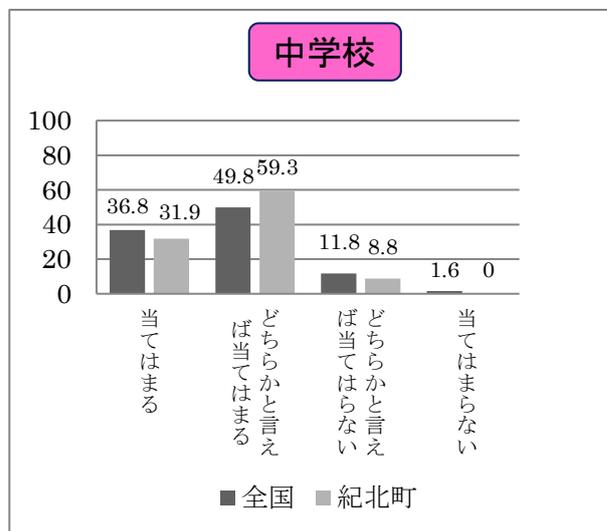
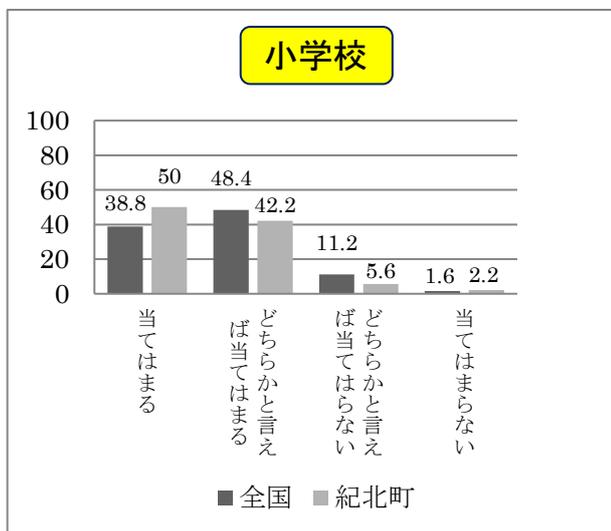
⑨いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



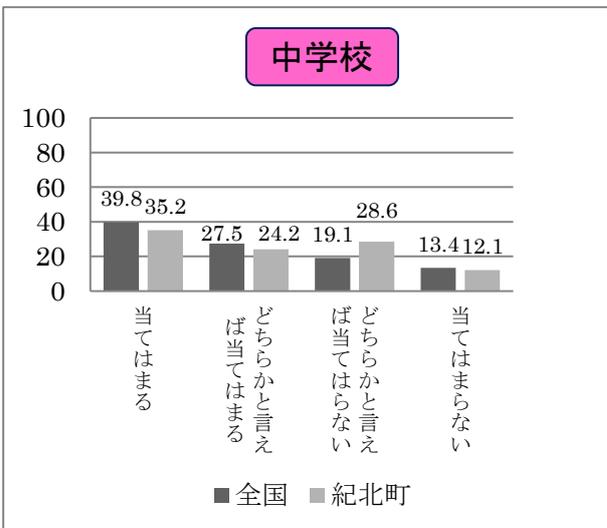
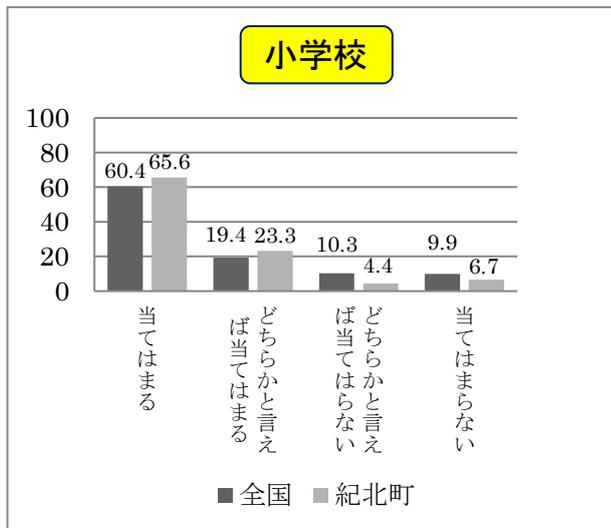
⑩自分には、よいところがあると思いますか。



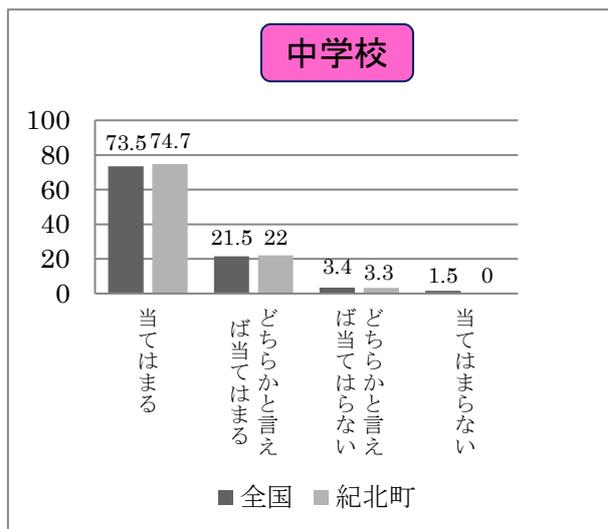
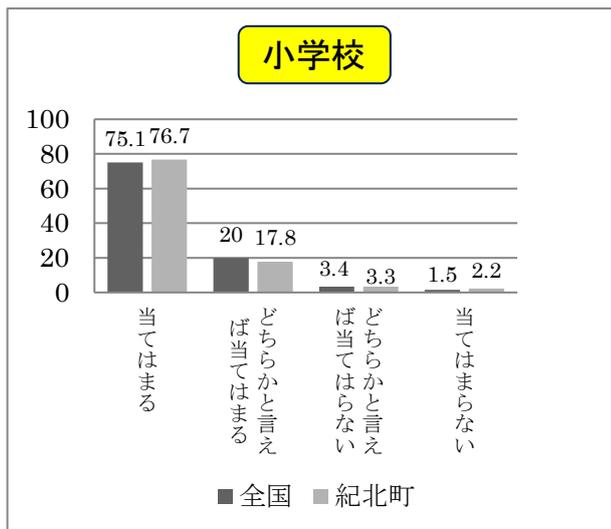
⑪自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



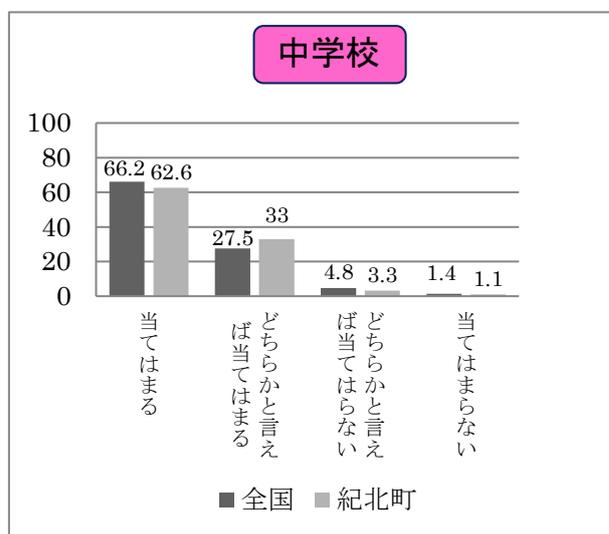
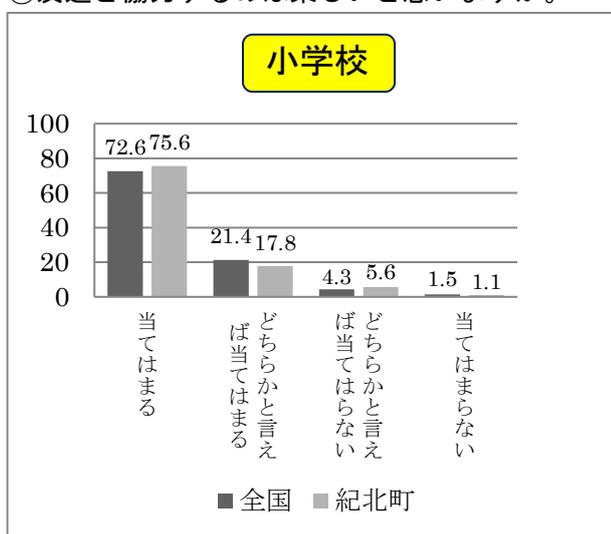
⑫将来の夢や目標を持っていますか。



⑬人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



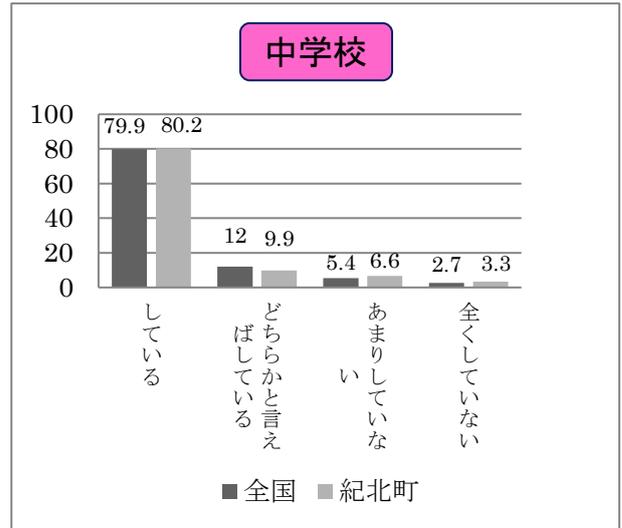
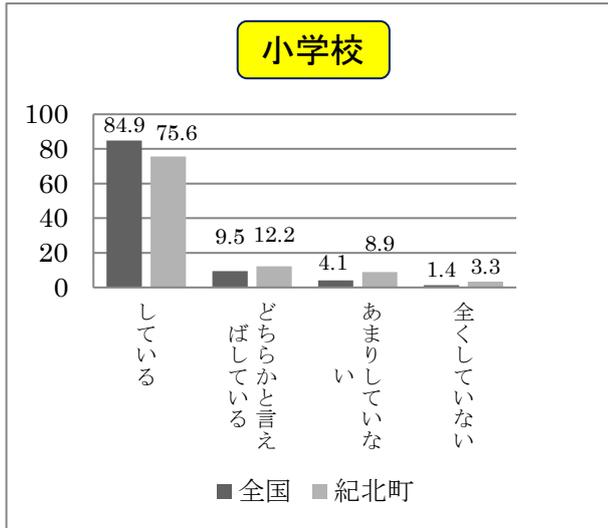
⑭友達と協力するのは楽しいと思いますか。



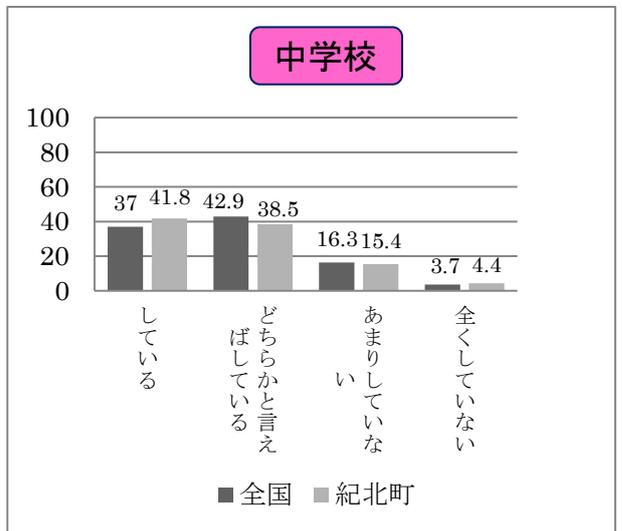
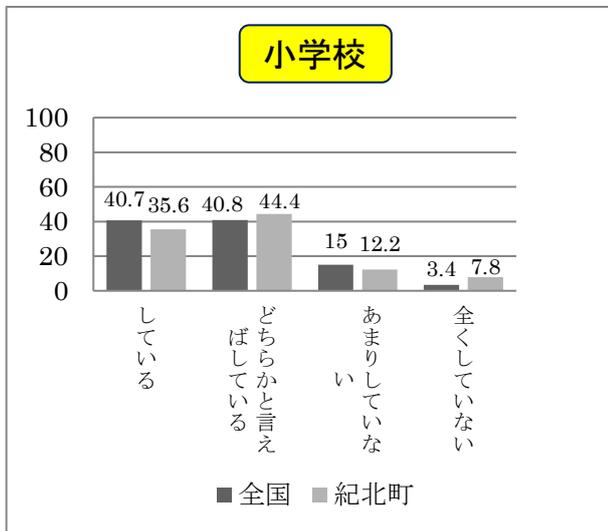
(2) 基本的な生活習慣で特徴的なこと

- 「朝食を毎日食べていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国とほぼ同じある。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国とほぼ同じである。
- 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国とほぼ同じである。
- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。）をしますか」に対して、「3時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 「普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴などをしますか」（学習時間やゲームをする時間は除く）に対して、「3時間以上」と回答した児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。

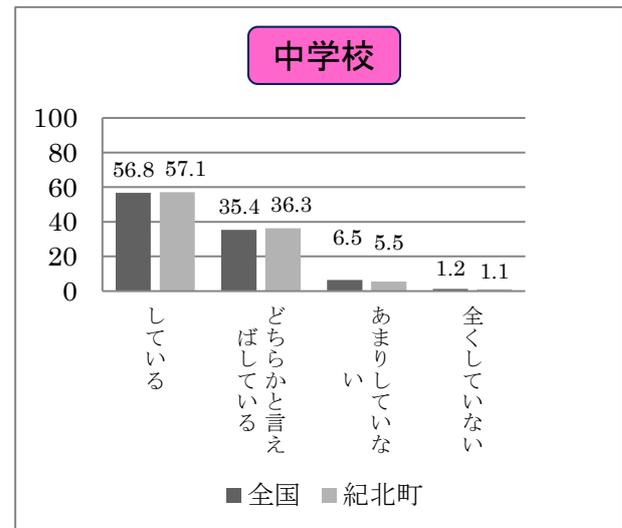
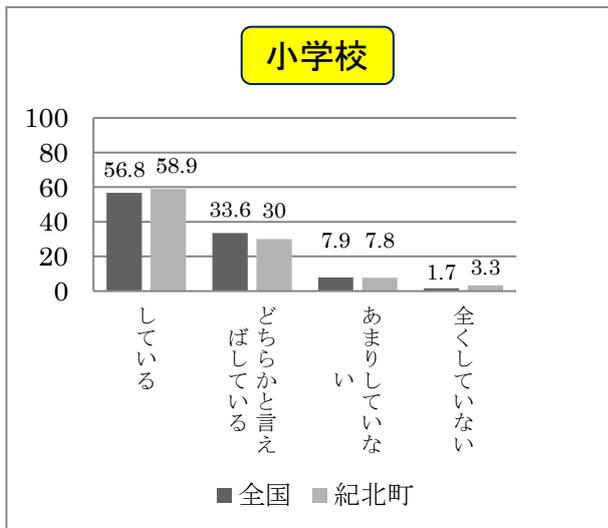
①朝食を毎日食べていますか。



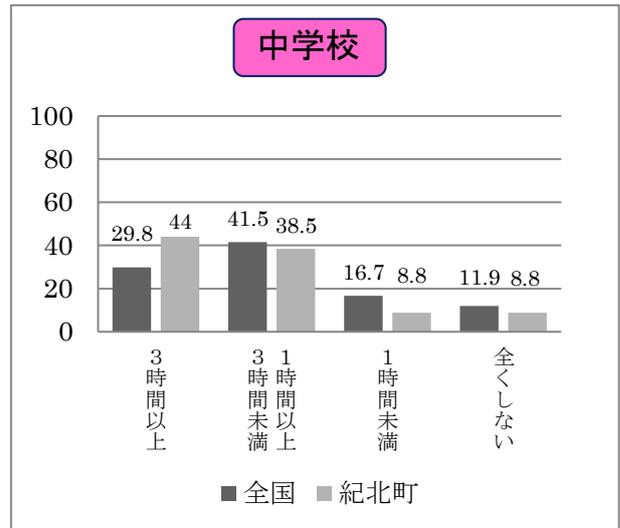
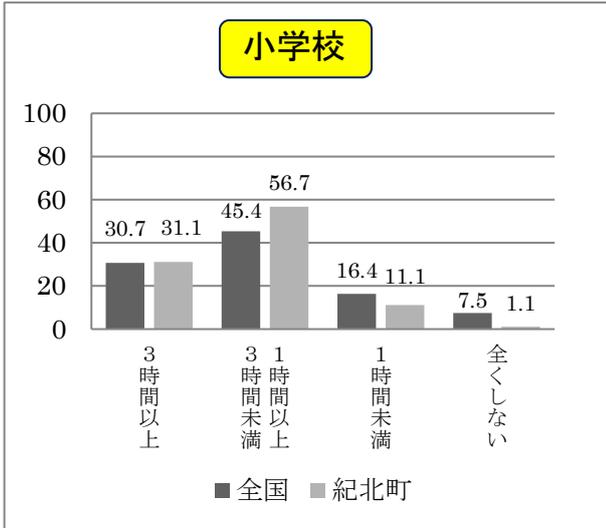
②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



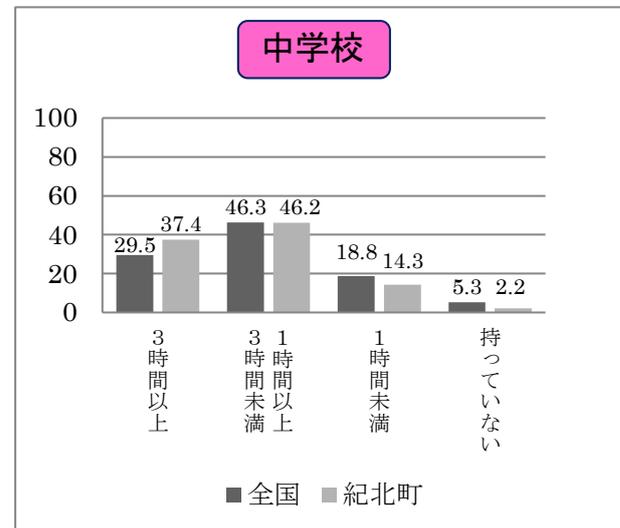
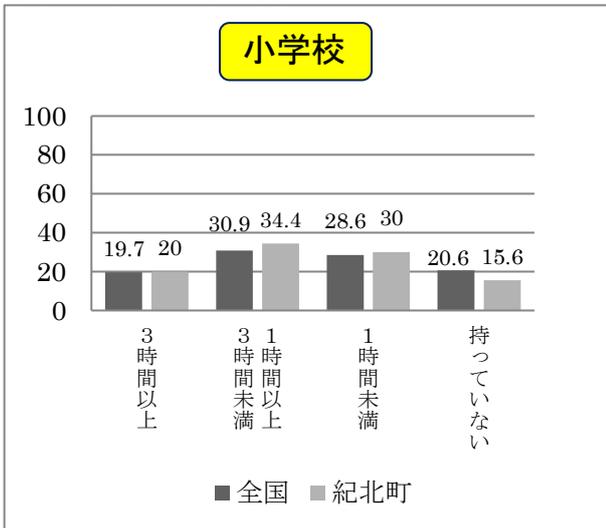
③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



④ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。



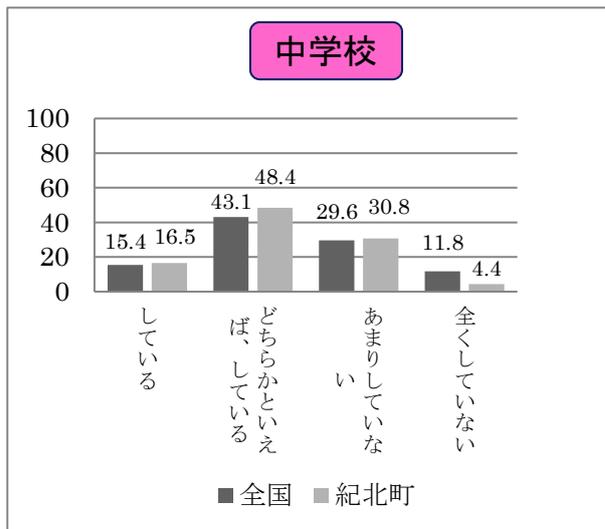
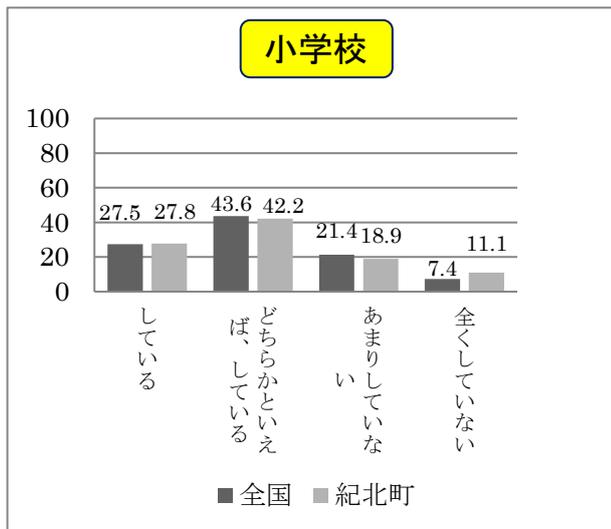
⑤ 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、SNSや動画視聴などをしますか。



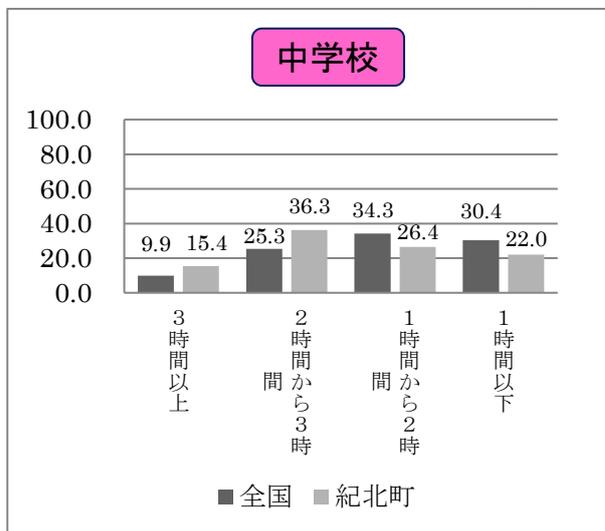
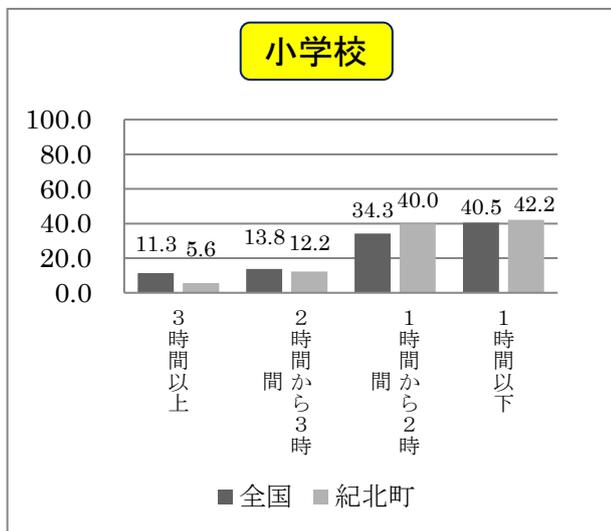
(3) 家庭学習で特徴的なこと

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、小学校は全国とほぼ同じで、中学校は全国より高い。
- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）2時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 小学校も中学校も、普段（月～金曜日）1日当たり読書する時間が、全国より短い。
- 新聞をほとんど、または、全く読まない児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 読書が好きな児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より低い。

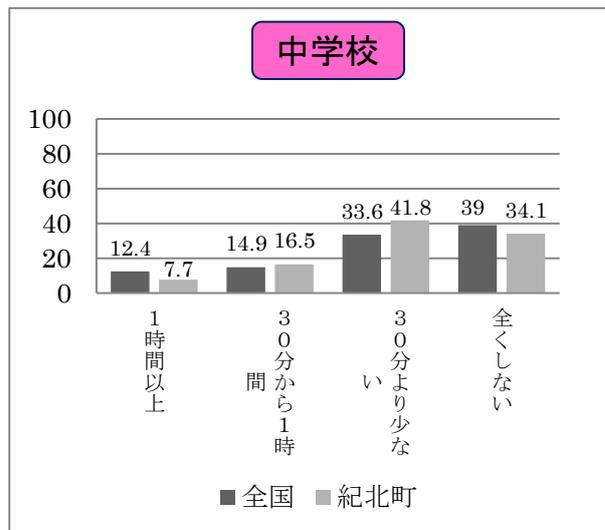
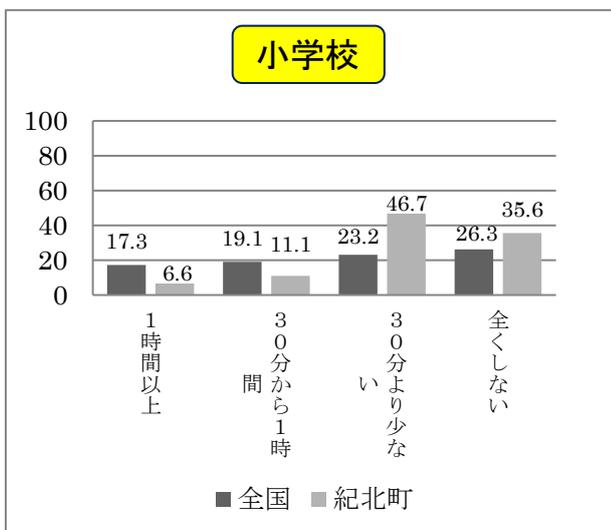
①家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



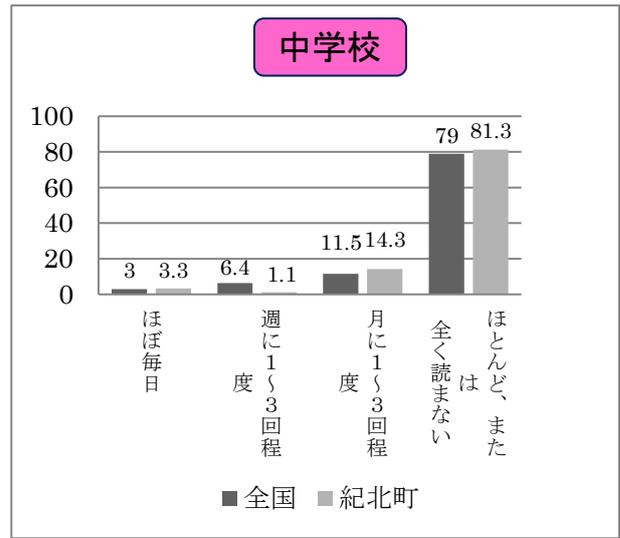
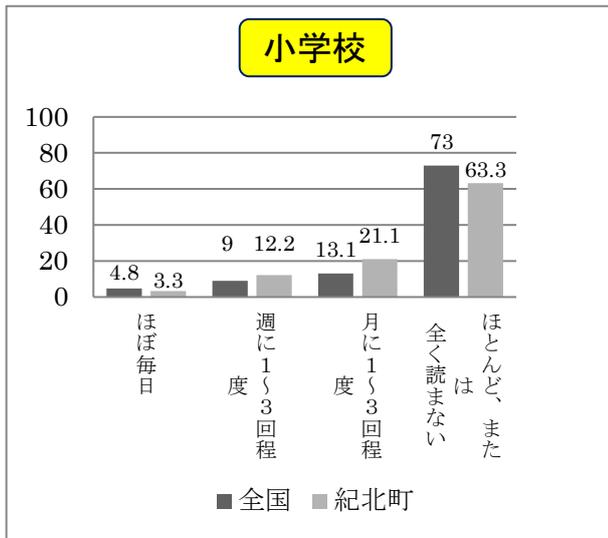
②普段（月～金曜日）、学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



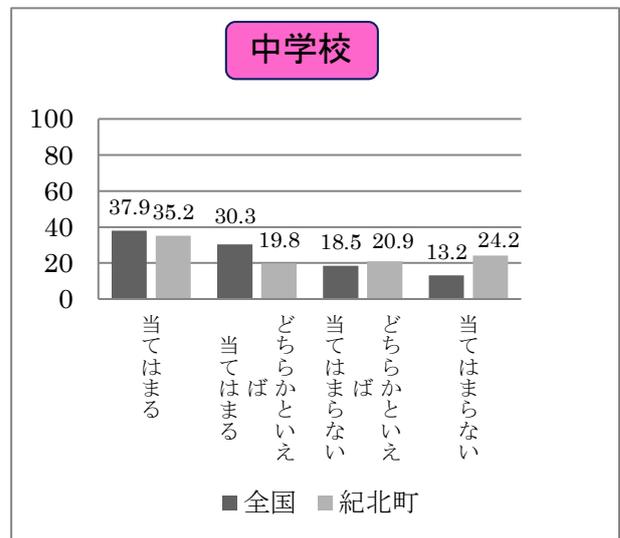
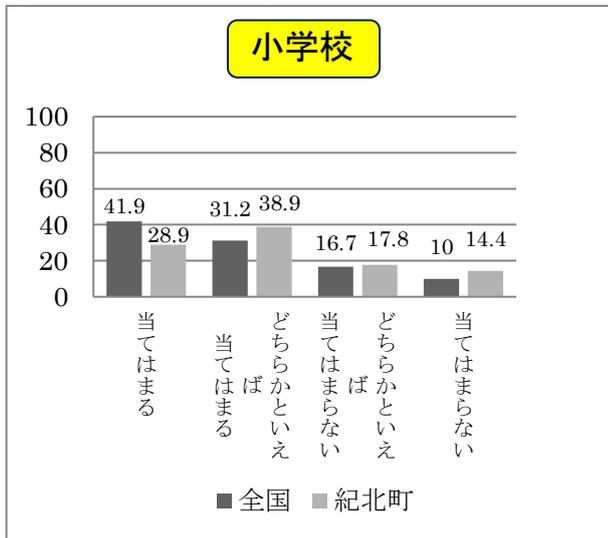
③普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



④新聞を読んでいますか。



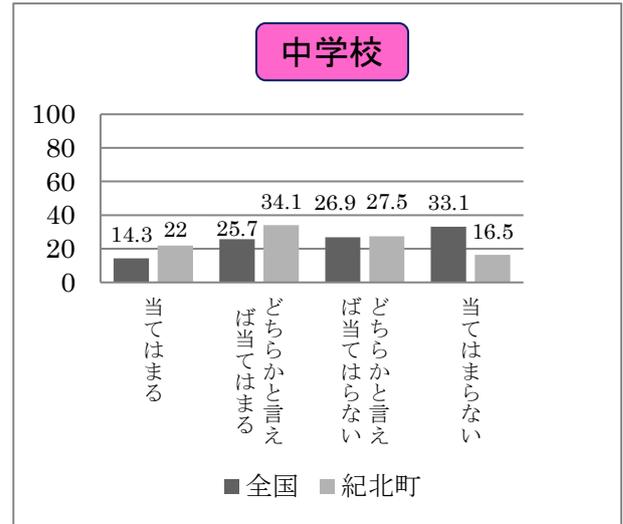
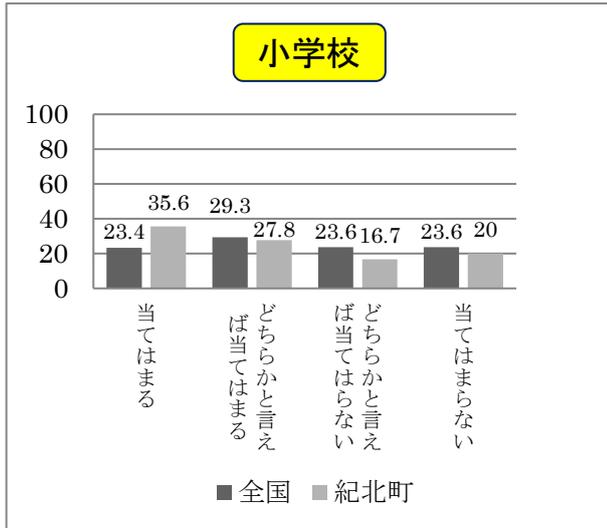
⑤読書は好きですか。



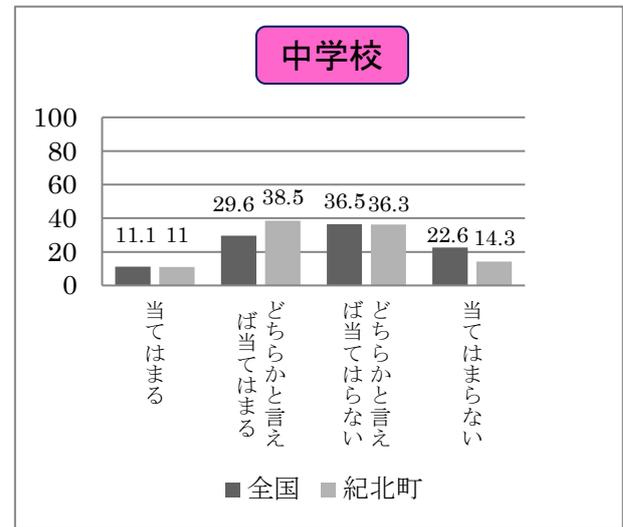
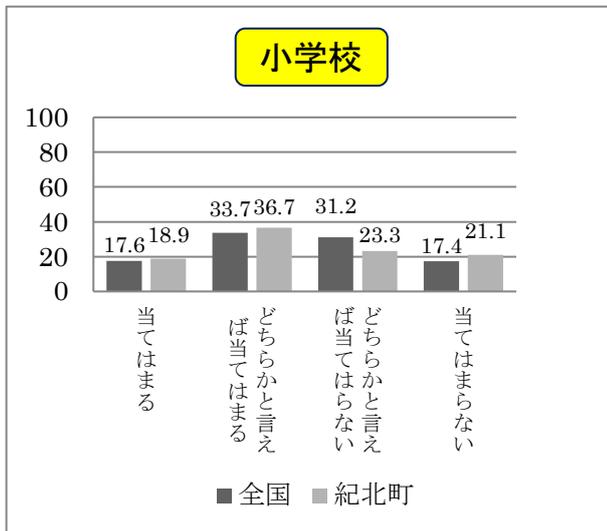
(4) 地域貢献・社会貢献で特徴的なこと

- 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合は、小学校、中学校とも全国より高い。

①今住んでいる地域の行事に参加していますか。



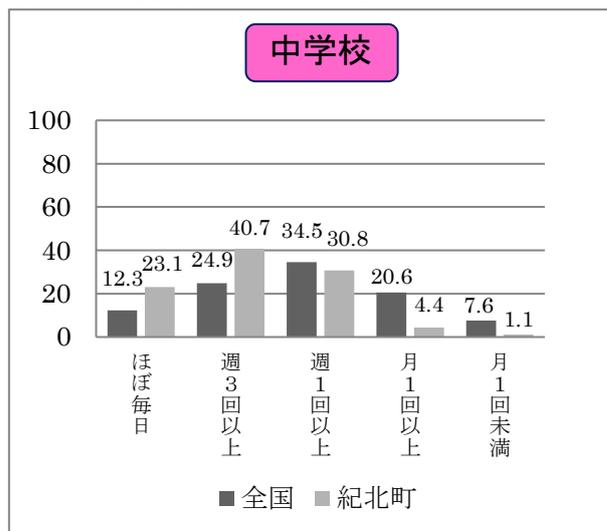
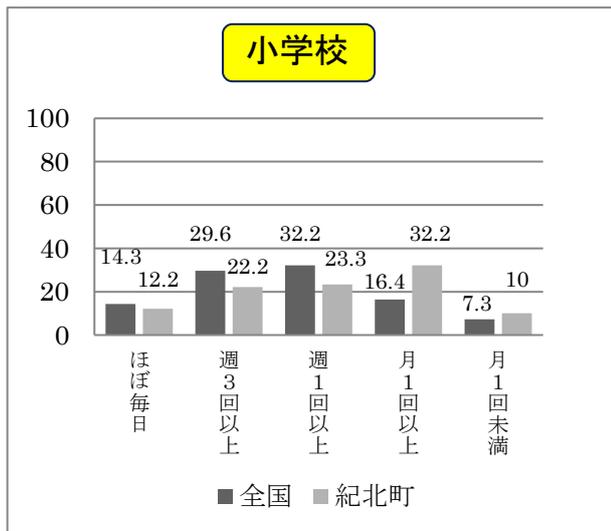
②地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



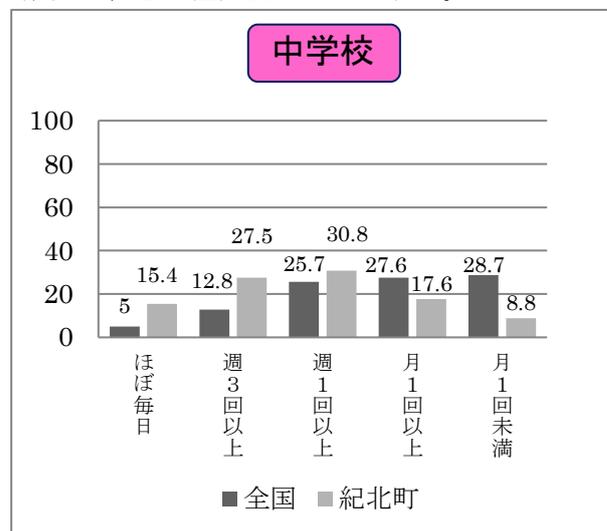
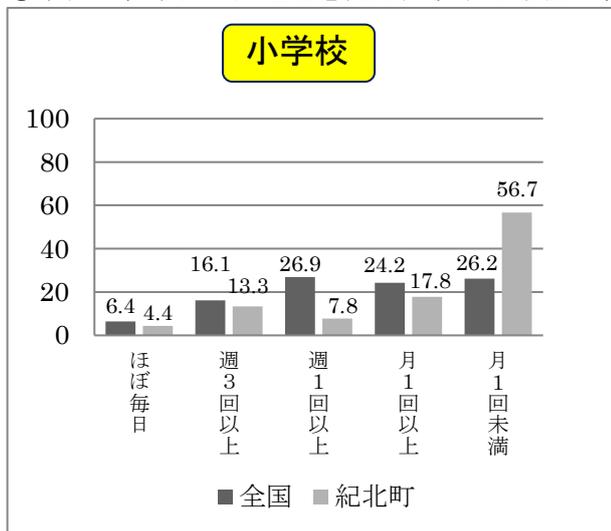
(5) ICT機器の活用について

- 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使う児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 学校で、学級の児童生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使う児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。
- 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使う児童生徒の割合は、小学校は全国より低く、中学校は全国より高い。

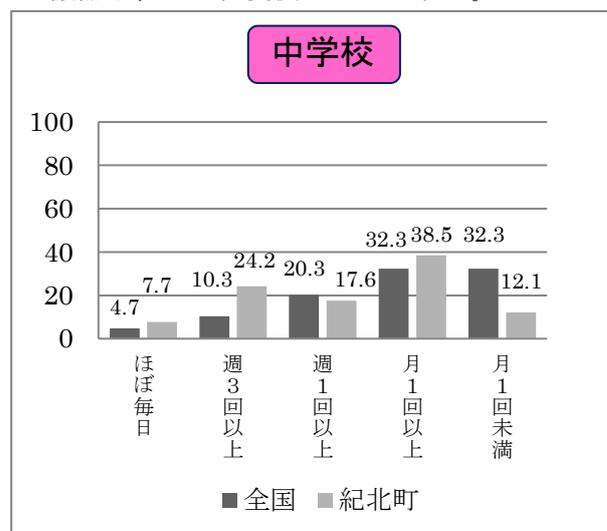
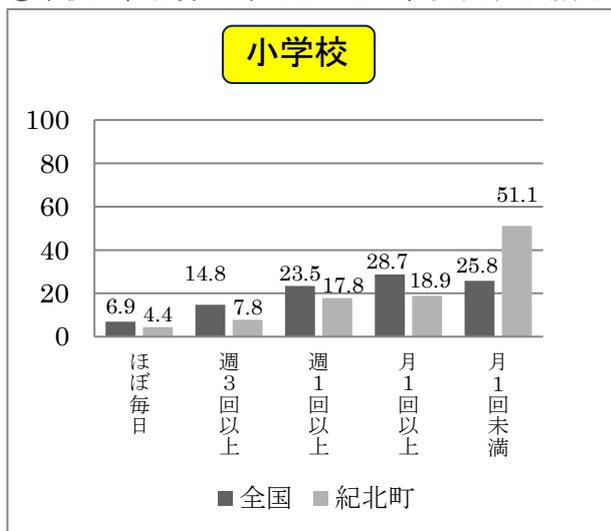
①学校で、授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を、どの程度使っていますか。



②学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、ICT機器を、どの程度使っていますか。



③学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器を、どの程度使っていますか。



「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。ここでは、「学校質問紙調査」のうち、肯定的に回答したものの特徴的な傾向を記載します。

- 前年度に、教員が授業や学校の問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合ったり、問題解決に当たったりした。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、学校生活をよりよくするために、学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行った。
- 調査対象学年の児童生徒に対して、特別の教科「道徳」において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫を行った。
- 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がその根拠を理解できるように工夫している。
- 調査対象学年の児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行った。
- 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある。
- 調査対象学年の児童生徒の保護者に対して、前年度までに、児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った。
- 令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した。
- 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている。
- 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている。
- 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に、定期的・継続的に参加している。

一方、以下の項目を肯定的に回答した学校の割合は全国より低く、課題改善に向けた取組をより進めていくことが必要ととらえている。

- 調査対象学年の児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行った。
- コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がある。

(1) 大切にしたい3つのポイント

①基礎・基本の確実な定着をめざします。

学年に応じた繰り返しの学習活動を取り入れることや、家庭学習の充実などに取り組むことで、基礎・基本の定着を図ります。

また、必要に応じて放課後、長期休業中等に個別指導を行います。

②活用力の育成をすすめます。

基礎的・基本的な知識・技能を身につけるだけでなく、学んだ知識・技能を基盤として、活用する力の育成を図ります。

③めあて・振り返りを意識し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組みます。

子どもたちや教師が、毎時間の授業の達成目標を明確にし、見通しを持って学習に取り組めるように、授業の冒頭に「めあて」や「見通し」を提示したり、授業の終わりに学習を振り返る活動を取り入れたりする授業改善に取り組みます。

(2) 学力向上委員会の開催

各学校における家庭学習の充実や授業改善に資するよう、町全体としての課題について共通理解を図るとともに、学力向上の方策について検討します。また各中学校区での授業実践交流を行い、教職員の実践力、授業力の向上を図ります。

保護者と連携し、子どもたちの家庭学習の実態、生活習慣、読書等を把握し、成果と課題について共通理解を図るとともに家庭学習の充実のための方策について検討します。

(3) 継続した授業改善の取組

①全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェック等の結果分析を活用して、各校の強み・弱みを把握し、「できない」を「できるようにする」取り組みを行います。

②言語活動の充実を図るための授業改善に取り組みます。

③「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組みます。

(4) 研修の充実

①学校の要請に基づき、学力向上アドバイザー、指導主事等を派遣して校内研修の指導・支援を図ります。

②町教育委員会主催の「テーマ別研修会」や「ミニ研修講座」を開催します。

③新学習指導要領完全実施や授業改善に向けた先進校視察を行います。

④ICTを効果的に活用できるように紀北町1人1台端末研修を行います。

(5) 補充学習の充実

- ①授業後半の「振り返り」「適用問題」等から見えてくる子どもたちのつまづきから、放課後、長期休業中の補充学習につなげます。
- ②補充学習には、「全国学力・学習状況調査過去問」、「みえスタディ・チェック過去問」、「三重の学-Viva!!セット」等、各種ワークシートを活用します。

(6) 家庭学習の充実

- ①ゲーム、SNS、動画視聴の時間を減らし、家庭学習の時間を増やす「家庭学習習慣確立強化月間」を設定し取組みます。
- ②子どもたちの家庭学習の実態を把握するとともに、成果と課題について分析し家庭に還流します。
- ③紀北町スタンダードとしての家庭学習のあり方を設定し、児童生徒、保護者への啓発を進めます。

(7) 読書活動の推進

- ①読書に親しんだり、授業で活用したりする活動を推進し、子どもたちが知識を広げ心豊かに成長するよう学校図書館活動の充実と活性化に努めます。
- ②「読み聞かせ」や「ブックトーク」等の活動の推進を図ります。
- ③図書館司書の配置を推進します。
- ④「読書のすすめ」を発行します。

(8) 家庭・地域との連携

- ①規則正しい生活習慣づくり、また、携帯電話やスマートフォン、ゲーム、インターネット等の適正な使用について、家庭と連携しながら取組を推進します。
- ②地域の産業、自然、文化、人材や伝統についての理解を深め、郷土を愛する心や地域に貢献する意欲を育むよう、地域と連携しながら取組を推進します。

(9) その他

児童生徒一人ひとりが居心地の良い学校・学級集団をつくり、安心して学べる学習環境をつくるために、すべての学年において学級満足度調査(Q-U)を実施し、その結果を活かした生徒指導を行います。

家庭・地域のみなさまには、今後も紀北町の教育活動へのご理解・ご協力とともに、子供たちの成長へのサポートをお願いいたします。